

I 実践

研究主題 「自他の生命を尊重しようとする態度の育成」
 ～第2学年 道徳における授業の実践例を通して～

- 1 主題名 かけがえのない生命の尊重 (生命の尊重) 項目 3- (1)
 2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

この項目は、「生きとし生けるものの生命の尊さに気づき、かけがえのない生命を慈しむ心を膨らませること」をねらいとしている。現代は、物や情報が氾濫し、豊かな時代とよく言われる。その中で生きる中学生は、ややもすると様々な情報の一つ一つを鵜呑みにしがちである。テレビの世界では、「命を絶つ」シーンがあふれ、またゲームの世界では、「暴力」が日常茶飯事である。すなわち、人間の生命が軽んじられており、その状況が社会全体のひずみを生んでいるといっても過言ではない。そこで、中学生として多感なこの時期に、生命に対する認識を重んじさせ、正しい方向に判断させるような規準をもたせることは、有意義であると感じている。今回の授業を通し、生命の価値・尊さを印象づけさせ、自分の命また他人の命について深い尊厳と畏敬の念をもって接することができるようにさせたい。

(2) 生徒の実態について (男子2名, 女子2名 計4名)

本校では、がんばりカードの活用を推進している。生徒の一日一日の学習の記録や反省を読むと、日々課せられた宿題等に真面目に取り組む様子や素直で真面目な性格がうかがえる。また、わずか4名であっても、大規模な学校の生徒の状況とほぼ変わらず、家ではゲームに興じながら夜遅くまで起きている話をよく耳にする。反面、生命の尊さについては、フィクションの世界に没頭するあまり、現実味を帯びながら自分自身や家族、友だちの生命について考える機会が少ない。

(3) 資料について (命の値段…科学的な分析)

生徒一人一人の大切な人を思い浮かべることから始まり、命の値段を考える話し合いを通し、改めて命の重さを考えさせたい。展開の場面では、導入の内容を意識させつつ、一人分しかない菓をどのように分けるか・だれに与えるかを考えさせ、その判断の過程においての話し合いを通し、生命を尊重する意識を深めさせる。同時に、いじめの問題・現代医学の進歩に伴う、臓器移植等を行う上での倫理的な問題に関連させ、広い視野を養いたい。終末においては、本時の内容と話し合いの過程を振り返らせ、今後生活する上での方向付けをもたせたい。

3 他の教育活動とのかかわり

事前の活動

学級活動・・・「私がこの地球上にデビューした日」 『心のノート』68～69ページを活用
 総合的な学習の時間・・・「将来を考えた体験活動をしよう」職業体験学習

本時 かけがえのない生命の尊重

事後指導

学級活動・・・「生命を考える (偶然性・有限性・連続性) について考え、まとめる。
 総合的な学習の時間・・・「将来を考えた体験活動をしよう」 礼状を書く・発表会

4 コミュニケーション能力との関連

生命尊重の大切さについてそれぞれの考え方を深化させていくために、命の値段を予想させたり、ガンの治療薬に関するシミュレーションにおいて考えを深めたりする活動を通して、互いの意見を受容しながら、自分の意見を発信できるように取り組ませていきたい。

5 本時の指導

(1) ねらい

生きとし生けるものの生命の尊さに気づき、かけがえのない生命を慈しむ心情を育てる。

- (2) 準備・資料 掲示用資料 (命の値段・科学的な分析, 5人の患者の言葉), ワークシート, ネームプレート

(3) 展開

④はコミュニケーション能力に関する支援

過程	主な活動と発問	予想される生徒の反応	支援の手だて
導入	1 生命の重さについて話し合う。 ・一番大切な人はだれか。 ・その人に値段をつけるとすればいくらか。 ・人間の値段はいくらか。	・父・母・家族・兄弟・友人 ・1億円・1兆円・つけられない ・安すぎる・おかしい	・逆説的な導入であるが、生徒に印象づけ、深く考えさせる内容にしていきたい。 ・事前に資料に関する内容は、伝えず、その場の考えを大切にするように助言する。 ・科学的なデータをもとに人間に値段をつけると、3,000円であることを伝え、さらに考えを深めさせたい。
展開	2 資料の説明を聞く。 3 がんの治療薬をだれに与えるべきか、考えをまとめる。 ◎薬は一人分しかありません。あなたなら、だれに与えますか。また、その理由も書きなさい。 Aさん(50歳・社長) Bさん(10歳・小学生) Cさん(80歳・お年寄り) Dさん(37歳・主婦) Eさん(あなたの大切な人) (1) 自分の考えを書く。 (2) ペアを組んで、意見を交換する。 (3) 全体で話し合う。	・誰にもあげない。 ・死んでもいいから5人で分ける。 ・一番お金のありそうな人にあげる。 ・子供へあげる。 ・主婦へあげる。 ・社長へあげる。 ・お年寄りへあげる。 ・大切な人へあげる。 ・怖くて決められない。 ・くじ引き(抽選)する。	・資料について熟考できるように、再度黙読させる。 ・机間指導をしながら、それぞれの考え方を認め、その理由について深く考えさせる。 ・考えが決まったら、ネームプレートで、だれに与えるかをはっきりと明示させる。最後に再度薬を与える人をネームプレートで明示させる。 ◎友だちの意見を尊重し、自分の意見と比べながら聞き、意見の再構築を図る。 (発言内容・態度) ・臓器移植等に触れ、関連づける。最大の生存時間が得られそうな人に移植するという考え方が現代では一般的である。
終末	4 現代医学における倫理上の問題点に触れ、認識を深める。 5 今回の授業を通して、伝えなかったテーマは何か、またその感想はどうかについて書く。	・難しかった。 ・決められなかった。 ・自分が決めていいのか迷う。 ・生命の重さを感じられた。	・人間の生命を机上で操作することに抵抗は感じなかったかどうか、生徒の気持ちを振り返らせたい。

6 成果

この授業を通して、生徒一人ひとりが「生命の尊さ」や「生命の価値」について改めて考え直すよい機会となった。「命の値段」の予想や「がんの治療薬を渡す人物」を決める話し合いでは、今までに経験することがなかった内容だったので、自分の考えを決められない生徒が多かったが、友だちの考えを聞くことによって、自分の考えを見つめ直し、再構築していこうとする姿勢が見られた。授業後も、インターネットで「命の値段」を進んで調べる姿や友だちの健康状態を心配する言動や様子が多く見られるようになった。

II 今後の課題

小規模校のため、限られた人間関係になりがちな生徒の実態を踏まえ、様々な状況を想定しながら、現代社会の「人権」にかかわる問題を意図的・計画的に提起することにより、自分の考えを深めさせたり、他者の考えと比較検討させたりする活動を今後もさらに展開していきたい。